

I P U M A G

地域とともに未来をデザインするマガジン Vol. 53
2012 Autumn

53

Iwate Prefectural University
Magazine

[特集1]

ふだん暮らす 町で学生が できることは?

岩手県立大学
学生ボランティアセンターの地域活動

[特集2]

就業力の育成と 就職支援の取り組み

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

NEW 県大いいね!キャンパスナビ



互いに支え合う関係へ。学生と住民の交流で絆を深め、

ふだん暮らす町で学生ができることは？



学生と住民の連携による地域活動

スノーバスターズ	ドナベネット	チャリパト隊
滝沢村×西和賀町	川前自治会	滝沢駅前安全安心の会

スノーバスターズ 滝沢村と西和賀町で、スノーバスターズとして雪かきのボランティアを実施。一人暮らしのお年寄りの家を中心に回り、雪かきをしながら、ニーズをヒアリング。

ドナベネット 学生と川前自治会の住民が鍋を囲みながら交流する「ドナベネット」。“地域みんなで鍋をすることは防災活動”をスローガンに、住民との関係づくりを目的として開催している。

チャリパト隊 危険箇所や不審者の発見など、防犯を目的としてチャリ(自転車)で地区内をパトロール。滝沢駅前安全安心の会や自治会とも協力している。



- 1 チャリパト隊のパトロールの途中で滝沢駅前安全安心の会事務局の留場さんと語り合う学生たち。挨拶や声かけも大事な防犯活動のひとつ。
- 2 学生と地域住民がみんなで鍋を囲み「ドナベネット」。毎回多くの参加者が集い、楽しい交流が繰り返される。
- 3 生活の中で困っていることなど、「ドナベネット」での何気ない会話から住民のニーズを拾うこともあるという。
- 4 スノーバスターズとして雪かきを手伝う学生たち。滝沢村だけでなく、西和賀でも活動を行っている。
- 5 パトロールで気づいたことなどは、「風のノート」という日誌に書き留めて、みんなで共有する。
- 6 川前地区をパトロールする学生たち。自転車で見回りをするため「チャリパト隊」と名付けたとか。
- 7 学生の活動のPRに協力してくれる滝沢駅前のラーメン店店主・伊藤さん。学生と一緒にパチリ

岩手県立大学が位置する滝沢村の川前地区。学生たちが運営する学生ボランティアセンターを通じ、徐々に地域の方々との交流が広がっています。学生が主導するイベントや防犯活動などの事例を挙げながら、学生と住民の連携による地域活動の様子をご紹介します。



学生と地域との関係づくりが、暮らしやすい地域づくりのスタートライン。

滝沢村川前地区に岩手県立大学が開学したのは、1998年のこと。当時、大学と地域との間にあまり交流はありませんでしたが、その関係に変化が生まれたのは、「学生ボランティアセンター」がきっかけでした。

2007年、新潟県中越沖地震の被災地へボランティアに向いた社会福祉学部の山本克彦准教授と学生たちは、仮設住宅を訪問するうちに地域住民との絆づくりが防災に役立つことを実感。しかし、自分たちの回りを振り返ってみると、地域住民と言葉を交わすこともなく、まちの魅力に触れることもなく、大学生生活を終えていることに気がきました。

日常でも災害の時でも互いに支え合える普段の関係づくりが大切。

交流を深めるといっても、それは特別なことをするのではなく、普通の「近所付き合い」のように、地域住民と会話をしたり、互いに協力したり、普段の積み重ねがまちづくりや防災・防犯の活動につながると、学生たちは考えています。

そんな顔の見える関係を目指して、2008年から学生ボランティアセンターが始めたのが「ドナベネット」です。これは、学生と地域住民が鍋をつつきながら、コミュニケーションを図るもの。これまで12回を開催してきましたが、さまざまな年代の住民が集まり、本学の学長や教職員も参加しながら楽しく交流する中で、地域のニーズも把握しています。また2010年には、防犯を目的

づきました。「もっと地域の人たちとつながっていかなければ…」そんな思いを抱いた学生の有志が集まり、2008年、大学と地域を結ぶ窓口としてボランティアセンターを立ち上げたのです。

このボランティアセンターの存在が知られるにつれ、ボランティアを頼みたいという地域の方々から大学を訪れるようになり、少しずつ学生たちとの交流がスタート。地域側でも、学生たちが安心して暮らせる環境をつくろうと、2010年に地域の事業主たちが集結して「滝沢駅前安全安心の会」を発足。ボランティアセンターの学生たちと協力し、大学との交流を深める活動など、学生と地域の両方にさまざまな動きが出てきました。

とした「チャリパト隊」を結成。学生たちが自転車パトロールしながら、危険な場所や不審者の発見など、地域の安全を見守る活動が続けています。「ドナベネットもチャリパト隊も、地域の方々との関係づくりが一番の目的。普段からいい関係を築いていれば、いざという時にうまく機能します。昨年の東日本大震災の時も地域のことを知っていたお陰で、一人暮らしのお年寄りの見回りがスムーズにできました」と、学生たちは話します。

他にも、川前地区の夏祭りのお手伝いや雪かきのボランティアを行うなど、さまざまな活動を通じて地域住民との絆を深める学生たち。地域側でも学生の参加を楽しみにする人が増えたり、新たな活動が始まるなど、成果が芽を出してきています。このように学生と地域との連携が、今後の新たなまちづくりのカタチとしてあわれめられています。

「地域の方からのメッセージ」

川前自治会会長 川村尚雄氏



「今後もいろいろな面で学生さんと大学と協力し、つながりを深めたいですね」と話す、川村さん。



「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎グループプロフィール
東日本大震災をきっかけに、沿岸地域の産業復興を目指して立ち上がった宮古短期大学の産業復興研究グループ。産業に関わる分野の教授、准教授、講師らが集まり、それぞれの専門の見地から水産業や商工業の産業振興のサポートを行っている。宮古地域の水産加工流通業の再編強化、山田町商工会、田老地区の復興ビジョンの策定などに取り組んでいる。

[研究メンバー]
植田 真弘 (宮古短期大学部・教授)
松本 力也 (宮古短期大学部・准教授)
松本 安司 (宮古短期大学部・講師)
宮沢 俊郎 (宮古短期大学部・教授)
※氏名は向かって左から順に記載。

今回の研究テーマ 地域産業の復興と再生についての研究 [産業復興研究グループ]

新しい宮古ブランドの構築で
もう一度三陸の産業を活性化する。
東日本大震災で壊滅的な被害を受けた、宮古地域の水産加工業。徐々に復興へと歩みを進める中で、宮古市と宮古短期大学部、水産加工業者が連携し、新たな取り組みを始めました。これは、個々の企業活動とは別に、地元企業をグループ化し、水産加工品を「宮古ブランド」として売り出そうというもの。宮古短期大学の産業復興研究グループでは、マーケティング、経済学、会計学など、メンバーの専門知識を結集し、ビジョンの構築や戦略立案をサポート。「競争力のあるブランドを創ることができれば、新たな産業の柱になり、地域の活性化につながります」と、メンバーの松本力也准教授は話します。現在、水産加工業者からのヒアリングを重ねながら、ブランド化の道筋を探っています。



昨年度に産業復興研究グループが関わった、山田町商工会商工業復興ビジョン策定に関する調査研究報告書。

復興に向かうまちのビジョンを描き、新たな地域づくりをサポート。

水産加工品のブランド化を進める一方で、産業復興研究グループが取り組んでいるのが、沿岸地域のまちづくりや商工会の復興のサポートです。昨年度は山田町商工会の依頼を受け、復興ビジョンの策定に協力。山田町の復興計画と方向性を合わせながら、地域住民、商工業者の希望を摺り合せし、未来のビジョンを描くための調査・研究を実施。町独自のショッピングモールの建設など、さまざまなアイデアが出される中、具体的にどうすれば商工業者が再起し、町の発展につながるのか、専門家の視点からアドバイスを行いました。また、今年度は宮古市田老地区の再生プロジェクトにも着手。さまざまな未来の方向性を提示しながら、一番ベストな復興のあり方を住民と一緒に考えています。



少しずつ復興へと進んでいる宮古地域の漁業や水産加工業、宮古ブランドの実現に向けて、行政企業と連携してプロジェクトを進めている。



ふだん暮らす町で学生ができることは?

今回の特集テーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、小さな活動から街の活性化という大きなテーマまで学生たちの参加に期待するたくさんのツイートをいただきました。その中からいくつかをご紹介します。



県外へ出て行かず、地域に残り地域を盛り上げるのが重要です。
@lovemorioka

小さな祭りやバザーなど公園を借りてやってみる。小・中・高が合流して廃品回収やゴミ拾い。
@DAIKI_24K

学生が自分の町(気仙沼の場合)にいたら、子供と遊んでいてほしいです。子育てのイメージをつかんだりする練習にもなります。
@kazenon1009

地元商店街のイベントなどに積極的に絡み、幅広い方と触れ合うことでいろいろと得るものもありますし、商店街としても若い意見を取り入れることで活性化につながると思います。
@Nandarikan

地域イベントなどに積極的に参加し様々な年代の方々と交流する中で、社会人の方々や小中学生に年齢が近いという強みを生かして、世代間のつながりや関係を構築する一つのきっかけになっていく。
@kazu_9law

同じ年代の仲の良い仲間だけではなく、いろんな年代や幅広い人種と交流し、たくさんのことを経験・吸収する。
@cucikon

公民館活動に参加。週一回のゴミ拾い。

積極性にあふれる学生は、街の活性化に向けて一肌脱ぐのも良いでしょう。そこまで至らなくとも、地元のイベント(例えば町内会の会合でも)に継続的に参加してみれば、地元の方々に認知され、関係性も高まることでしょう。
@ickyo_ipu

Comment

地域のイベントとひとことでも、お祭りやバザー、清掃活動等、さまざまなカタチがあります。どのカタチにおいても大切なのは、そのコトを通して顔の見える関係をつくること。まずは“参加”してみて、次はイベントを“参画”する(つくりあげる)側に立ってみてはいかがでしょうか。

社会福祉学部准教授 山本 克彦

[特集に関するアイデア・ツイートの流れ] twitter

特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントにツイートください。

- 1 公式アカウントで「お題」を確認
- 2 twitterにアイデアをツイート
- 3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「53」、次号では「54」と変化しますので、「#ipumag53」「#ipumag54」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願いします。 ※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしております!



キャリアセンターで、就職相談を行っている学生とスタッフ。センター内ではパソコンで情報収集をしたり、就職関連の図書や求人票、卒業生の就職活動体験などを閲覧できる。

就業力の育成と就職支援の取り組み

社会で役立つ力を育てながら マンツーマンで就職をサポート。

岩手県立大学では、中期計画の柱のひとつとして『地域の中核人材』の育成を掲げています。中でも力を入れているのが、「就業力の育成」と「就職支援」の強化。E-マップの活用や就業サポーターズ制度の導入など、大学独自の取り組みをご紹介します。

学生の能力を引き出し 働く基礎力を身につける。

将来、どんな仕事に就きたいのか。自分にはどんな職業が向いているのか…。大学に入学した時点ではつきりとした将来像を描いている学生は、そう多くはありません。しかし、早い時期から進路を見据えていけば、学生時代になにをすべきかが明確になり、その後の過ごし方が自ずと変わってくるのです。

県立大学は、文部科学省補助事業「就業力育成支援事業」(22年度、23年度)に引き続き、「産業界ニーズ事業」(24年度、26年度)に採択され、この事業を活用して全学をあげて学生の就業力の育成を支援します。キャリア教育を意識したカリキュラムの編成を始め、地域貢献活動等を通して学生の企画力・実践力を育てるE-プロジェクトの実施、自分を客観的に診断し、弱点克服や長所を伸ばすための行動計画をたてるE-マップの活用など、いろいろな角度から学生の力を磨く取り組みを進めています。

「就業力」の育成を進めながら、その両輪として力を入れているのが「就職支援」の強化です。県立大学では昨年10月、岩手の企業・産業・経済・地域団体と連携し、就業サポーターズネットワークを発足しました(平成24年9月現在98社登録)。企業には学生のサポーターとして、就業力育成授業への外部講師の紹介や学生のインターンシップの受け入れ、学生が主体的に取り組むプロジェクト活動への協力などをお願いし、問答で仕事に触れ、地元企業に対する理解を深める環境づくりを整えています。

その一方で、個々の就職活動についてはマンツーマンできめ細かく指導。就職に関する悩みや相談を始め、エントリーシートの書き方や面接対策など、キャリアセンターの専任スタッフが学生一人ひとりに合ったアドバイスを行っています。各学部でも就職委員会を中心に様々な取り組みを行っています。その中で、総合政策学部では地域公共人材育成センターを設けて、公務員を目指す学生のために公務員採用試験対策をサポート。過去試験の問題集・参考書の提供や模擬テスト会などのトレーニングを通じ、平成23年度は過去最高の公務員試験合格者を出すことができました。

学生の能力を引き出す「就業力」の育成と、個別指導に重点を置いた丁寧な「就職支援」。これらの相互の取り組みによって、地域に貢献できる魅力ある人材を育てていきます。



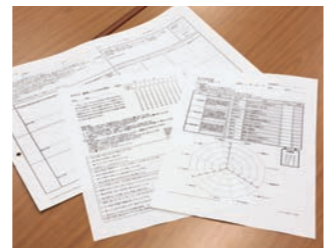
緊張感漂う本番さながらの模擬面接。学生たちは何度も練習を重ね、企業面接に挑む。



盛岡市内のホテルで企業見学をする学生たち。担当者の話に真剣に耳を傾ける。



学生自らが企画・運営を行うE-プロジェクトで活動した「復興girls*」の学生たち。



自分の強みや弱みを把握し、その根拠の整理、改善計画を立てるためのE-マップ。

<就業力の育成と就職支援の取り組み>

1 E(Employability)-マップの活用(総合政策学部)

就業力の自己診断結果を可視化するE-マップは、自分自身の強みや弱みを把握し、変化に気づくためのもの。総合政策学部では1年次から活用している。

2 E(Employability)-プロジェクト支援制度

学生が主体的に企画・運営するプロジェクトを支援。昨年度は、3つの異なるテーマ(復興支援、ビジネスコンテスト、地域おこし)で3団体が活動した。このうち復興支援をテーマに取り組んだ「復興girls*」は「社会人基礎力育成グランプリ2012」で準大賞を受賞した。

3 就業サポーターズ制度

岩手県内の企業や団体等と連携し、就業サポーターズネットワークを発足。現在、98社が会員登録しており、外部講師の紹介やインターンシップの受け入れ、学生活動の支援などを行う。

4 地域公共人材育成センター(総合政策学部)

公務員試験対策のサポートを目的に活動を展開中。過去試験の問題集・参考書の提供、模擬テスト会などを定期的に行っている。

[内定学生から]

今 拓磨さん(岩手県立大学ソフトウェア情報学研究科・博士前期課程2年)
最初は自己流で就職活動を行っていたのですが、書類審査がなかなか通らなかったためキャリアセンターに相談しました。エントリーシートの書き方を指導してもらい、自分をいかにアピールするかを習得。面接対策ではいろいろなスタッフのアドバイスを受けたことで、様々な面接官に対応できるスキルと度胸が身につきました。



[就業サポーターズネットワーク会員から]

村松 幸雄さん(信幸プロテック株式会社代表取締役)
地元の大学に協力したいと思って会員になり、外部講師として学生たちに話をしました。その際にアドバイスしたのは、職業を考える前に、まず65年の人生設計を描いてみることに。自分がどうなりたいのか明確になれば、どんな会社でどう仕事すべきかが見えてきます。受け身ではなく、夢に向かって積極的に仕事に取り組んでほしいですね。





TAKIZAWA 7.1



7.11



オープンキャンパスを実施しました!

7月1日に滝沢、7月8日及び8月26日に宮古の各キャンパスにおいてオープンキャンパスを行ないました。大学や学部・短期大学部についての説明会、模擬講義、学部紹介イベント、施設見学、キャンパスツアーなど多彩な企画を用意したほか、滝沢キャンパスでは今年初めて「学生団体パフォーマンス」として、サークルの演技などを披露し、来場者の注目を集めていました。また、宮古キャンパスでの2回目(8月26日)には、過去最高の42名の生徒の方にご参加いただきました。県内外から多くの高校生や保護者の方にお越しいただき、生の県立大学・短期大学部を存分に体験いただきました。



MIYAKO 7.8, 8.26

復興支援車両を学生ボランティアの被災地支援活動に活用

7月11日、パソコンやコピー機などを備え、ボランティアによる被災地復興支援や子どもの学習支援活動の拠点となる「復興支援ボランティア活動用車両」の出発式を行いました。中村学長の挨拶につき、学生ボランティアセンターの小原副代表による決意表明、最後にテープカットが行われました。本学が取り組む「いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業(国庫補助事業)」の一環として整備された車両です。



7.20

夏夜の恒例イベント「七夕祭」開催

今年も7月20日、学生主導で「七夕祭」が岩手県立大学のモールで行われました。バルーンアートで賑やかに飾られたエントランスで、合唱やダンスなどのパフォーマンスが行われ、会場では200人ほどの観客が音楽に合わせて手拍子を打っていました。他にも、ボランティアサークルなどによる出店や展示も行われ、大学生協と実行委員会による抽選会で豪華景品に歓声が上がっていました。(出版委員会S・T)



9.13

フォーラム「大学改革、教育改革の方向について」開催

9月13日、本学講堂にて「大学改革、教育改革の方向について」と題し公立大学協会北海道・東北地区協議会によるフォーラムが開催されました。文部科学省の大学政策の展望についての説明に続き、公立大学協会会長・大阪府立大学学長の奥野武俊氏が大学改革・教育改革についてユーモアを交えつつも熱く講演。最後に公立大学協会事務局から公立大学の認証評価に関する報告が行われました。



7.28

交流を楽しみながら岩手山登山で汗を流す

7月28日、第47回村民岩手山登山が行われ、一般登山者や山田町の中学生など100名を超える多くの方が参加しました。本学からも県大チームとして15名が参加。登山当初は晴天だったのですが、次第に霧が深くなったため9合目から下山を開始。今回山頂までは行けなかったものの、他の参加者との交流が生まれたり、岩手山を登る達成感を味わったことなど、多くのことを得られたようでした。(出版委員会A・Y)



夏銀河2012が行われました

全国から集まった学生が、沿岸南部地域仮設住宅でのコミュニティ形成支援を行う活動「いわてGINGA-NETプロジェクト」。昨年からスタートしたこのプロジェクトは、本学学生ボランティアセンタースタッフも引き続き運営に参加しました。集まった学生たちは被災地を視察したあと、学生スタッフからのオリエンテーションを受講。翌日から参加学生たちはそれぞれが仮設住宅へ向かい、本格的な活動を開始。8月から9月の実施期間中、のべ約4,000名の学生たちが岩手に集まりました。※写真は深夜にまで及ぶ本学運営スタッフ打合せの様子

※イニシャルを明示している記事は、出版委員会の学生が取材・執筆したものです。



8.24

盛岡さんさ踊りパレードで、3年連続の最優秀団体に輝く

8月1日から4日にかけて盛岡市中央通りで行われた盛岡さんさ踊りパレードに、県立大学さんさ踊りチームが参加しました。県大の学生や教職員も参加し、総勢200人によるさんさ踊りは迫力満点でした。意気の合ったかけ声で会場を魅了し、2日目の最優秀団体に輝きました。最終日の輪踊りでは県大学生で大きな輪ができ、ミスさんさや一般参加者も加わってさんさ踊りを楽しみました。(出版委員会T・Y)



緑のカーテンで夏も快適に

6月末に本学共通講義棟に節電対策の一環としてグリーンカーテンが設置され、朝顔やゴーヤーなどが植えられました。グリーンカーテンは、昨年度のように節電を行うか学生から意見を募集したときに寄せられた意見のひとつです。今年度が初の取り組みとなったグリーンカーテンですが、どの植物もグングンと元気に成長。中でも朝顔は3階まで蔓を伸ばし、日差しを遮りながら美しい花を咲かせ、見る人の心を癒してくれました。(出版委員会N・W)

I P U T O P I C S

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

10月27日・28日は滝沢・宮古の両キャンパスで待望の大学祭。楽しいイベントもいろいろ開催!

■滝沢キャンパス

テーマ 「維新〜んだば、やってみっべし〜」

意味:岩手県立大学大学祭を「維新」する

昨年度までの伝統を引き継ぎつつ、大学祭をさらに良いものへ。来場される皆様から楽しめるものへ。そして何より、すべての参加して下さった皆様、協力して下さった皆様の思い出に残るようなものへ。この意気込みが大学祭に関わるすべての人に伝わるような大学祭を目指します。

○主なイベント紹介

県大的選手権 / 今年はお絵かき伝言ゲームと二人羽織早食いレースを企画!どちらも飛び入り参加大歓迎♪豪華賞品をGETしよう!**異性なりきりコンテスト** / 男の子は女の子に!女の子は男の子に!県大の学生が異性になりきってコンテストを行います。**M&Dパフォーマンスコンテスト** / 素敵な歌声、美しいピアノの音色、キラキラなダンスなど、個性豊かなパフォーマンスが楽しめます。**BEST of ORANGINIST** / 講堂では、大学祭カラーであるオレンジを取り入れたファッションショーを行います!素敵なコーディネートで、講堂がオレンジに染まる!あなたの投票でBEST of ORANGINISTを決めませんか?

ステージタイムテーブル(27日)

時間	イベント名	主催団体
9:50~10:10	オープニングセレモニー1日目	大学祭実行委員会
10:20~10:35	さんさ踊り披露	さんさ踊り実行委員会
10:45~11:10	ELECTONE LIVE 2012	エレクートンサークル Joyful
11:20~11:50	THE・大迫あやかしまやかしLive	大迫あやかしまやかし
12:00~12:30	アップロZZ presents アコースティックライブ!!	アップロZZ
12:40~13:10	ギタクラ大学祭LIVE 2012	ギタークラブ
13:20~14:20	県大的選手権	大学祭実行委員会
14:30~15:00	さよなら巻き○○!!涙の解散ライブ!!!	巻き○○
15:15~16:15	異性なりきりコンテスト	大学祭実行委員会
16:30~17:00	Stage de JAM!!	JAM!!
17:10~17:50	ア・カペラライブ 2012	アカペラサークル Jelly Beans
18:00~19:00	中夜祭	大学祭実行委員会

ステージタイムテーブル(28日)

時間	イベント名	主催団体
9:50~10:10	オープニングセレモニー2日目	大学祭実行委員会
10:20~10:50	おやすみブンブン	ベガサス合奏団
11:00~11:30	軽音 ライブステージ!	軽音楽部
13:00~14:10	アーティストライブ	大学祭実行委員会
14:50~15:20	みんなで一緒にぼっち飯	ぼっち飯
15:30~16:00	Segmentation fault	SEGMENT
16:10~17:10	DOG FIGHT!!	YOUTH PUNK FANBSWANKY DOGS
17:20~19:00	グランドフィナーレ	大学祭実行委員会

※イベント名・時間については変更の可能性があります。

■宮古キャンパス

テーマ 「粋〜いき〜」
時間: 両日とも10:30~15:30

○主なイベント紹介

お化け屋敷/学生によるバンド演奏/各種模擬店/コスプレコンテスト/ピンゴ大会及びスタンブラリー 他

講堂タイムテーブル(27日)

時間	企画・団体
10:45~11:45	劇団ちやねる
14:30~15:30	混声合唱団Polish
16:00~18:00	M&Dパフォーマンスコンテスト

講堂タイムテーブル(28日)

時間	企画・団体
12:00~12:15	居合道部
12:30~13:30	混声合唱団Polish
15:30~16:30	BEST of ORANGINIST



※写真は昨年度の大学祭(滝沢)の様子

同時開催 OPEN CAMPUS in IPU Festa 2012

岩手県立大学をもっと知るチャンス! 大学祭を楽しみながらオープンキャンパスイベントに参加・体験して県大への理解を深めよう!!

■オープンキャンパスイベント(10:00~16:00) 各学部の「入試相談」や「体験・紹介イベント」のほか、卒業生と在学生による「トークショー」、キャンパス・アテンダント(CA)が相談・案内をする「CAなんでも相談室」、さらには「ドライビングシミュレータ」などが体験できる施設の公開など、県大を知るためのイベントをピックアップ。詳しくは<http://www.iwate-pu.ac.jp/>

地域をつくる 希望の星たち

「子ども」と「世界」に関わり続けたいです。

保育士として、さらに経験と知識を積み上げ、



卒業生

佐々木わかな「保育士」

1983年盛岡市生まれ。県立盛岡北高校卒業。短大時代にはワシントン州での海外研修を経験。県立大学社会学部福祉学部へ編入学し保育士に。今年、神戸で開かれた全国保育団体合同研究会では、5歳児の保育をテーマに研究発表。「理論にも強い保育士を目指すべき」と訴える。現在、北松園風の子保育園で1歳児10人の担任を務める。

北松園風の子保育園に採用されて、現在7年目。園ではキャンプ、運動会、姫神登山、生活発表会など成長の場となる行事が様々あり、子どもたちはお互いに励まし合い、これを楽しんでいきます。保育者としてこれらの体験を共有し喜び合うことが、この仕事のやりがいにつながっていますね。

今年、念願の青年海外協力隊に合格し、来年から2年間、エチオピアに派遣されることになりました。不安はいろいろありますが、精一杯活動してきたいと思っています。そして、これからもずっと、子どもに関わる仕事をしていきたいと思っています。

高校生の頃、ホームステイの受け入れをしたことがきっかけで英語や国際交流に興味を持ち、盛岡短期大学の国際文化学科へ進学しました。自分の進みたい道が見えたのは、短大1年生の時。授業で貧しい国の子どもたちの現状を学んだり、海外のボランティアについて調べたりするうちに、「子ども」や「世界」に関心が向き始めました。そんな中、青年海外協力隊の募集説明会があり、保育士が足りないことを知り、保育士隊員を目指そうと考えたのです。そこで、資格を取るために岩手県立大学社会学部福祉学部の保育士養成過程へ、多くの人と知り合い、大切な仲間を得られたのは、編入学して良かったと思うことの一つです。

地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
学習や研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在学生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。

在学生

小野寺敦子「看護学部4年」

1982年盛岡市生まれ。県立盛岡第二高校卒業。総合政策学部を卒業後、岩手医科大学に3年間勤務し、1年間の準備期間を経て看護学部へ入学。現在、成人看護学講座に所属し卒業論文で「術後排尿障害」を研究中である。音楽が趣味で、学生時代はバンドを組みサックスとドラムを担当していたとか。

卒業後は、緩和ケアや退院調整に関わる仕事に就くことが希望です。まだまだこれからですが、自分を高めながら、患者さんに真剣に向き合える看護師になりたいと思っています。

3年の秋から始まった看護実習では、患者さんが抱く不安に、どう向き合おうべきか悩みました。力になりたいと願いながらも、うまくできない自分が悔しくて……。でも、「学生さんについても前向きになれたよ」と、患者さんについていただいた時は本当にうれしかった。今後の自分の支えになる経験ができました。

看護学部では、様々な外部講師の話の伺ったり、患者さんの生の声を聞く機会があるなど、いろいろな角度から看護を考えることができたのがいい刺激に。社会人経験があったお陰で、知識を吸収することに貪欲になれたと思いますね。

不安は大きかったです。取って代わりたい道を選ぶことが成長につながると信じて突き進みました。

いつか患者さんの力になれる看護師に。
社会人になって見つけた夢に挑戦、

「自分の可能性を広げるために学問はあるんだ」。私が岩手県立大学に進学を決めたのは、総合政策学部の教授の言葉がきっかけでした。

県大いいね!

キャンパス・アテンダントがご案内します!

キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、46名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!

Vol.1 / 学生イベントでキャンパスの四季を楽しもう!

今回ご紹介するのは、学生たちが企画・運営する学内イベント。どれも学生ならではのアイデアや趣向を凝らした、楽しいイベントばかり。四季折々のキャンパスを楽しみに、ぜひ遊びにきてくださいね。

一般の方々の参加も大歓迎です!



5月 体育祭

岩手県立大学、盛岡短期大学部、宮古短期大学の「オール県大」が集う体育祭では、スポーツで競い合いながら、大学や学部、学年の壁を越えて、楽しく交流。地元の川前保育園の園児たちによる太鼓のステージもありますよ。



夢灯り

12月

12月になると中央モールにはイルミネーションが飾られ、大学もクリスマスモードに突入。イベント当日は、模擬店が出店し、ダンス&音楽系のサークルがステージを盛り上げます。中でもDJやヒップホップダンスなど、大学ならではのサークルの発表は必見です!

学祭を締めくくる花火もめっちゃキレイです〜!



7月 七夕祭

夏休み前の前期の打ち上げイベントが、この七夕祭。学生が腕をふるう模擬店の出店や豪華賞品が当たる抽選会、ダンスやダブルダッチ、軽音楽部など、いろんなサークルの発表が楽しめるのも魅力。好きなことに熱中する学生の素顔に出会えます。

七夕祭で願いごとを書くのがかたうらしいよ!



10月 大学祭

毎年、2日間で1万5,000人ものお客様にぎわう大学祭。企画・運営もすべて学生が行い、半年前から準備を始め、何度もリハを重ねながら本番に挑んでいるんです。今年も30以上の模擬店出店をはじめ、多彩なステージイベントや誰でも参加できる「県大的選手権」など、楽しい企画が目白押し。初のファッションショーの開催もありますので、要チェックですよ。

編集後記

今回の特集2では、本学の就業力の育成と就職支援に焦点をあててご紹介しています。就業力は、学生自身が気づき、身に付けていくもの。「就職」自体を目的化してしまうのではなく、その先にある自分をいっつも見据えながら進まなくてはならないものですが、ひとりではどうしようもなくなるときもあるはず。そんなときにキャリアアセンターを訪れると、そこにいつも話を聞いてくれるスタッフがいる。そう考えるだけでも少し気持ちが軽くなるのかなと思わされる取材でした。(企画室T・O)

キレの良い手振りと思いが合ったかけ声で今年もさんさん踊りの最優秀団体に輝いた県立大学。本学には県外出身の学生も多いですが、盛岡さんさん踊りでは出身地に関わらずたくさんの方が踊りを楽しんでいました。初日には卒業生によるチームがパレードに参加したり、ソフトウェア情報学部柴田研究室の学生がケイフルテレビの中継に協力したりと、様々な形でさんさん踊りに関わっています。地域に寄り添う大学として、このようなイベントを通して地域との交流を大切にしていきたいですね。(出版委員会A・Y)

本学の前期には、七夕祭の開催、村民岩手山登山への参加、さんさん踊りへの出場などさまざまなイベントがありました。そして、学生は前期試験を終え、長い夏季休業へ突入。しかし、9月末からは既に後期の授業が始まっています。後期にも大学祭、夢灯りなどの楽しいイベントがいっぱいですが、今時期は季節の変わり目、気温の変化により体調を崩してしまつこともあります。後期を楽しみ、頑張るためにも、体調管理には十分気を付けましょう。(出版委員会A・Y)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL] <http://www.iwate-pu.ac.jp/>
[e-mail] management@ml.iwate-pu.ac.jp 発行:2012年9月30日